

2020 学位授与の方針（学生が身に付けるべき資質・能力の目標）に照らした学修成果に関する検証

マイステップ・リエゾンポートフォリオ「学修成果の把握（学科／研究科専攻の学位授与の方針）」のデータを活用した検証です。

各学科・研究科専攻の学位授与の方針（学生が身に付けるべき資質・能力の目標）については、本学ホームページの「教育方針」（下記の URL）をご覧ください。

<https://www.tfu.ac.jp/aboutus/policy/index.html>

学科・研究科専攻名 産業福祉マネジメント学科

産業福祉マネジメント学科では学生の学修成果の把握を目的に、ルーブリックに基づいて、「知識・技能」「プレゼンテーション力」「課題解決力」「キャリア観」の4項目を5段階評価で調査した。評価内容は下記に示した。なお、回答数は1年生終了時3、2年生108、3年生103、4年生111である。

各項目に対して5段階を1～5点（5点を最高評価）に換算した際の各学年の平均値をまとめて図示したものが以下になる。なお、棒グラフの上方に配置されている数字は平均値である。

知識・技能

1. 企業の経済活動ならびに地域共創について考え説明することができない。
2. 興味をもって調べたりするが、うまく説明できない。
3. 一定の知識にもとづき、自らの興味の範囲では説明することができる。
4. 一定の知識をもとに、現状と課題について討議できる。
5. 専門知識をもとに現状と課題について討議でき、かつ論述することができる。

プレゼンテーション力

1. プレゼンスキルを身につけていない
2. プレゼンスキルを身につける努力はしている
3. 主だった、プレゼンスキルは身につけている
4. 状況と要望に適合したプレゼンスキルを選択することができる
5. プレゼンスキルを活用して、有効なコミュニケーションを図ることができる

課題解決力

1. 知識を習得しようとする意欲がない、マネジメントサイクルで考える習慣がない。
2. 知識を習得することならびにマネジメントサイクルで考える努力をしている。

3. 一定の知識に基づき、問題を把握している。
4. 専門的な知識をもとに、現状と課題について理解し基本的な説明ができる。
5. 問題把握と解決策を具体的に考えることができる。

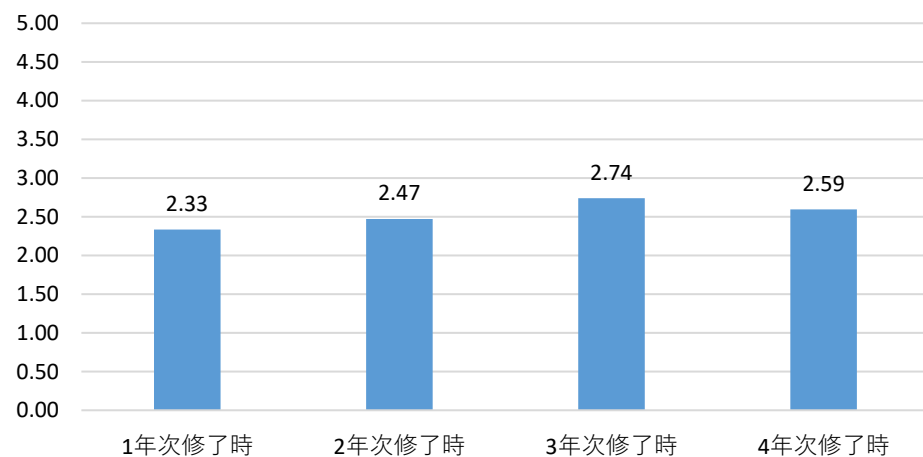
キャリア観

1. キャリア展望を考える必要性に気づいていない。
2. キャリア展望の必要性には気づいているが、説明できない。
3. キャリア展望について説明することができる。
4. キャリア展望を特定の業界・企業の動向を踏まえた上で説明することができる。
5. キャリア展望について、経済情勢ならびに業界・企業の動向を踏まえた説明ができる。

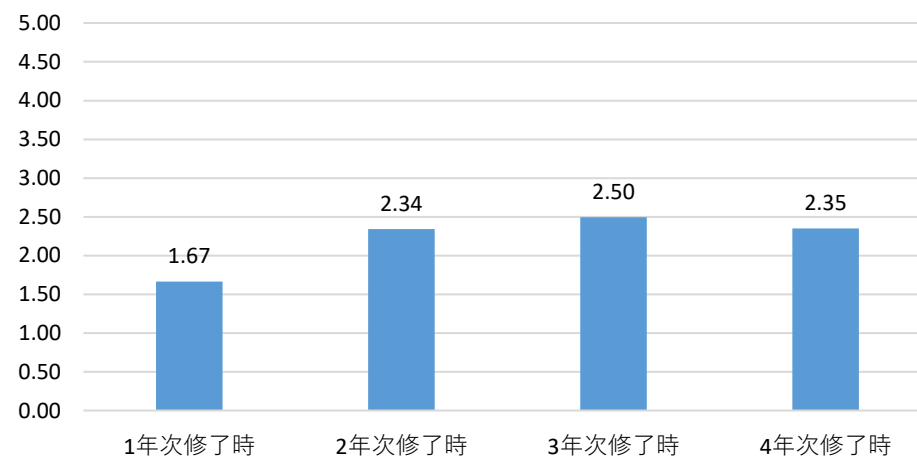
4 項目のいずれにおいても学年が上がるほど平均値が高くなり、卒業に至るまでに段階的な成果獲得の傾向がみてとれる。したがって、学科として学修は適切に進展していると判断できる。また、全項目において1年生の入学時点との比較ではそれ以降の学年の段階で平均値の上がり幅が大きいことから、学科の取り組みが評価できる。

一方、2019年時には4年次終了時の平均値が概ね3以上であったのに対し、2020年次はいずれの項目の平均値も3に届いていない。新型コロナウイルス感染症の影響により対面授業が制限されていたこともあり来年度の課題であると考えられる。

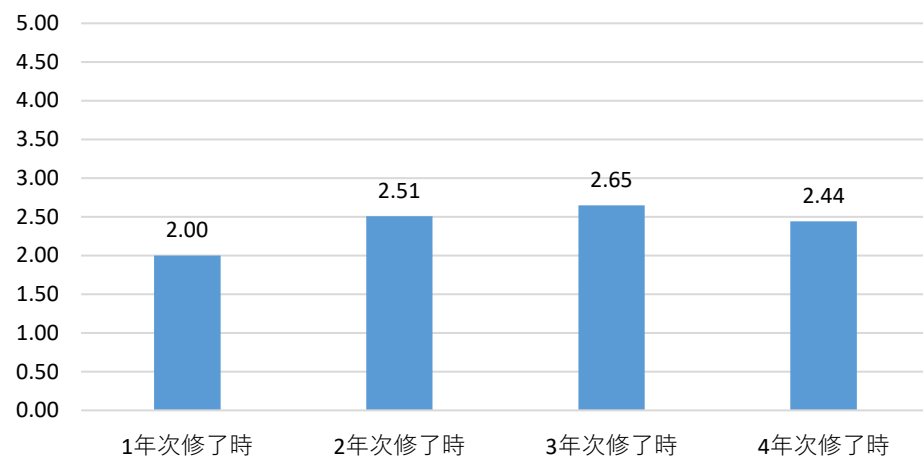
知識・技能



プレゼンテーション力



課題解決力



キャリア観

